

1994.11 ~ 1995.5

積雪期山行報告書

信州大学山岳会

S.A.C

目次

(P)

・積雪期個人山行・北岳バトレス	1
奥穂高岳	・
明屋山	・
戸隠 - 乙妻山	・
八ヶ岳西面・沼ウゴ沢	2
八ヶ岳西面・阿陀陀北稜・沼ウゴ沢	・
八ヶ岳西面・阿陀陀北稜	・
八ヶ岳西面・大同心南陵	3
甲斐駒ヶ岳・戸台川藪沢 双見沢	・
八ヶ岳西面・沼ウゴ沢	4
戸隠 P1	・
八ヶ岳西面・石尊稜	5
八ヶ岳西面・小同心クラック	6
戸隠 P1	7
妙高山	8
岩木山	9
白神岳	・
塩見岳 - 北岳	10
常念岳	12
十石岳 - 乗鞍岳	13
八ヶ岳・赤岳主稜	14
中山崎尾根	15
雄山嶺尾根	・
鳳凰三山	16
岳沢コノ尾根	・
鹿島槍ヶ岳・天狗尾根	17
中止になった個人山行 - 一覧	18
・フク冬合宿・白馬岳	19
・記録・気象	21
・装備	22
・エッセン	23
・メンバー反省	27
・冬合宿・梅海新道	28
・記録	31
・装備	31
・気象	31
・エッセン	32
・メンバー反省	32
文部省・大学山岳部リーダ・春山研修会・立山	36

(平成6年度・1994年5月)

◆ 10/15 ~ 18 (3+1) 北岳バットレス

メンバー L 長谷川哲也 上山、石田、岸

15. 松本 = 広河原 ~ 白根大池 B.C.

16. BC ~ 登攀 (ピラミッドフェース ~ 四尾根) 8:00 取り付き場,

1P. のとろで 気温低く、天気があやしいため、懸垂にて下る。
(感想) 天気の判断が難しいと思った。せめて早く行って残念だった。

1994年11月5~6日 北ア・瀬沢

メンバー: 松本、岸

行動予定: 坂巻 ~ 瀬沢 ~ 奥穂 (泊) ~ 北穂 ~ 槍 ~ 坂巻

行動記録: 坂巻温泉 6:10 ⊙ ~ (自転車) ~ 横尾 8:56-9:10 ~ 瀬沢 11:45 ⊙

TS 8:30 ● ~ 横尾 9:58-10:15 ● ~ 坂巻温泉 11:50 ●

感想: 雨で登れなくて残念だった。しかしあの道をチャリで行くのは実に気持ちいい。

◆ 11/9 頸城 明星、左岩稜ルト。メンバー L 長谷川哲也、上山 祐貴子

9. 松本 = キヤンパ場。登攀 (8:00) ~ 左岩稜ルト (12:00) ⊙ ~ 下降

(感想) 2P の人工があぶみが宙に垂れ下がっている。どうなることかと思う程、恐ろしかった。登った後は充実感があった。取り付きも近くて良い。

◆ 11/12 ~ 14 (2+1) 戸隠連峰 戸隠山 ~ 乙妻山

メンバー L 上山 祐貴子、松本 穂高、三木 隆一

12. 7:00 長野駅 ⊙ = 奥社入口 (7:45) ~ 八方尾 (9:45) ⊙ ~ 戸隠山 (10:20) ~ 不動避難小屋 (11:40) ⊙ B.C.

13. BC (7:00) ⊙ ~ 高妻山 (8:48) ⊙ ~ 乙妻山 (9:40) ⊙ → ⊙ ~ 不動 B.C. (12:00) ~ 戸隠牧場 (13:40) ⊙ ~ 奥社入口 (14:23) ⊙

(感想) 12日の八方尾は天気も良く爽快だった。13日は天気は良く、小雪が降り出した。登れて良かった。

◆ 12/14 ハケ岳 ジョウゴ沢

メンバー ↳ 長谷川 哲也、上山 祐貴子、前原 徹

14. 松本(5:00) = 美濃戸山荘(6:00) ~ 赤岳 鉱泉(8:00) ●
~ ジョウゴ沢 ●/●

(感想) 天気が悪く、雨まじりの雪だ。たけど、初めてのアイスクライミングで
楽しかった。氷が青くてすごいきれいだった。

1994年12月17~18日 ハケ岳西面

メンバー：松本、岸、博多

行動：

17日 美濃戸6:00○ - 赤岳 鉱泉(BC) 7:50-8:45 - 阿弥陀北稜スカウト2P + 1Pテ - 阿弥陀岳
13:10 ○ - BC 15:15 ○

18日 BC 8:20◎ - ジョウゴ沢クライミング - 5mの滝 12:50 - BC 13:40 ◎ - 美濃戸
15:04 ◎

ルート：阿弥陀岳北稜の取り付きまでのRFがちょっと難しい。しばらく夏道沿いに登っ
ていき、JPの直下から取り付く。北稜自体は問題ない。ジョウゴ沢はすべての二俣を
左に行くと最後にその滝に着く。アイスクライミングの練習にはちょうどよい。

感想：一日目は天気が良くて気持ちよかった。岸が凍傷になったのが残念だ。

◆ 12/18 ハケ岳 阿弥陀北稜

メンバー ↳ 長谷川 哲也、三木 上山、長澤 四宮、前原(不参加)
後藤

18. 松本(4:00) = 美濃戸山荘 ~ 南沢 ~ 行者小屋 ~ 阿弥陀北稜
~ 阿弥陀岳 ~ 美濃戸

(反省) ガイルを車中に忘れ、夏道通りに歩いた。荷分けの際、注意に
欠けていた。忘れものに注意したい。

八ヶ岳 報告

12/22 長谷川哲也、山内哲文

～大同心南陵～



12/22 美濃戸口 7:00 - 赤岳鉱泉 7:50 - 南陵峠 9:00 (30+25+25+25) - 終了 13:40

～赤岳鉱泉～美濃戸口～
15:00 16:00

計画では南陵ルートに行く予定だったが、難易度で判断したので南陵ルートにする。
南陵ルートの最終ピークが核心部で哲也さんにリードしてもらったが、アイゼンでのアタックのかけかえ(AI)でとてもよかった。ここをリードするにはかなりのうづがこいる。そして南陵ルートはさらにむずかしい。 (山内)

甲斐駒 戸台川 藪沢 双見沢 12/

上 笹森達也、馬目弘仁、(ともに部外者)、原田裕介

- 400 伊十登
- 530 戸台川 - 登山口から 300m
手前のところに車を置く
- 545 登
- 830 取りつき
- 1530 終了
- 1700 北沢峠
- 1835 車の場所
- 一路 駒ヶ根へ
- そして えん会!!

天気は
みんぱ
①

感想と反省

じえらいつか来たの一言につける。レベルの高い人たちと登ればよかった。とてもよかった。やっぱりアイスクライミングは装備がけっこう重要ですね。本当の安全さというものは、己の能力なんだなって思った。山岳会とは一味ちがった山行でした。

八ヶ岳西面 (八ヶ岳に想い, part. 1)

L. 博多 誠 原 日 裕 介
(部外者)

1/11 ~ 13.

1/11 500 松本
730 美濃戸 ◎ B.C.
900-1015 赤岳 鉱泉 ◎ ショウゴ沢
1100 F₂ ◎
1200-1400 大滝の1本 トッポロ-70
左の沢の大滝で練習!! ◎
1510 赤岳 鉱泉 ◎

1/12 830 B.C. 発 ◎
赤岳 主山 ほうに向かう。
915 行者小ヤ ◎
道をおもいきり まち
がえて...
1215 取付 ◎
帰ることになる。
1530 行者 ◎
1600 B.C. 着 ◎

1/13. 830 B.C. 発 ◎
博多 77 さんの調子がよくな
ため ショウゴ沢 であそんだ
後 帰る。
1200 美濃戸 ◎

不完全燃焼
だったので、また行
こうと約束した。

戸隠 P1. 岸. 三木

1/5 入山 ~ 熊の遊び場のちよ. と上た B.C

1/6 B.C ~ 無念の峰 ~ B.C ~ 下山

反省. 白ガスがしても少なかつた。なべを忘れてかわりにピロカン
を使いました。

八ヶ岳西面 (八ヶ岳に想ふ、part II!!)

2/16 ~ 18 L. ほかた、ほかたゆうすけ
まこ

2/16 入山 1800 赤岳鉱泉 B.C. ①

2/17 石尊稜

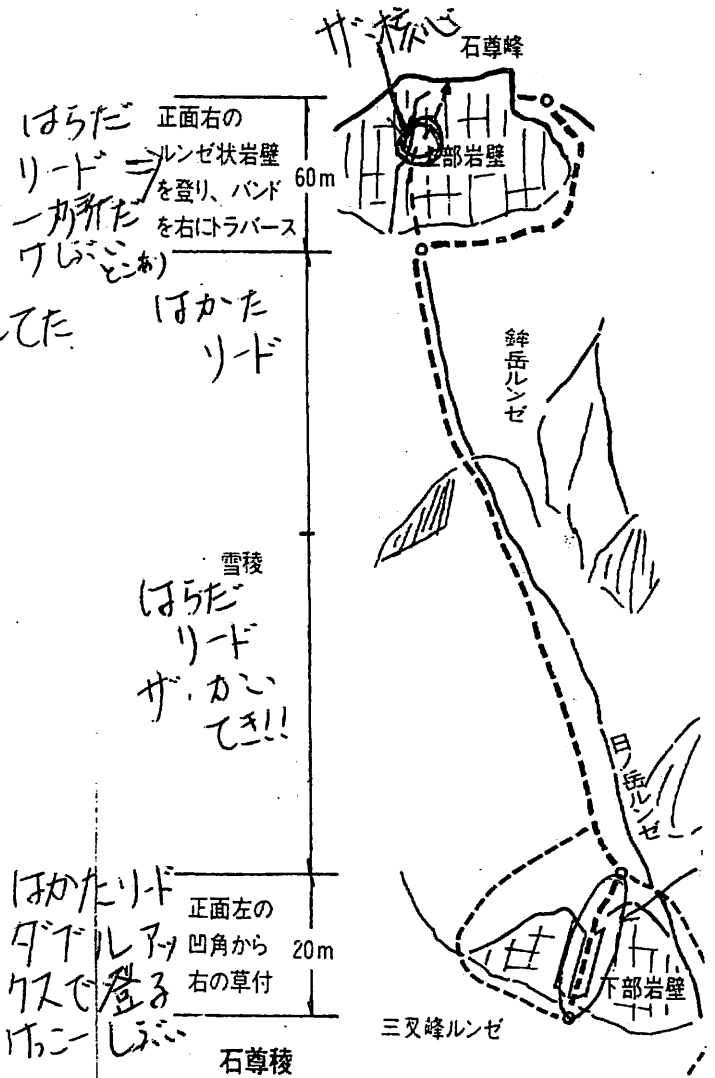
040 B.C. 発

030 取付

1230 終了 ①

風が強く -30°C をこえた

1630 B.C. 着



2/18 小同心クラック

640 B.C. 発①

大同心稜をつめて

830 取付①

右図より

1130 小同心の頭

1230 横岳頂上①

この間 40m

L原田 (IV-級程度)

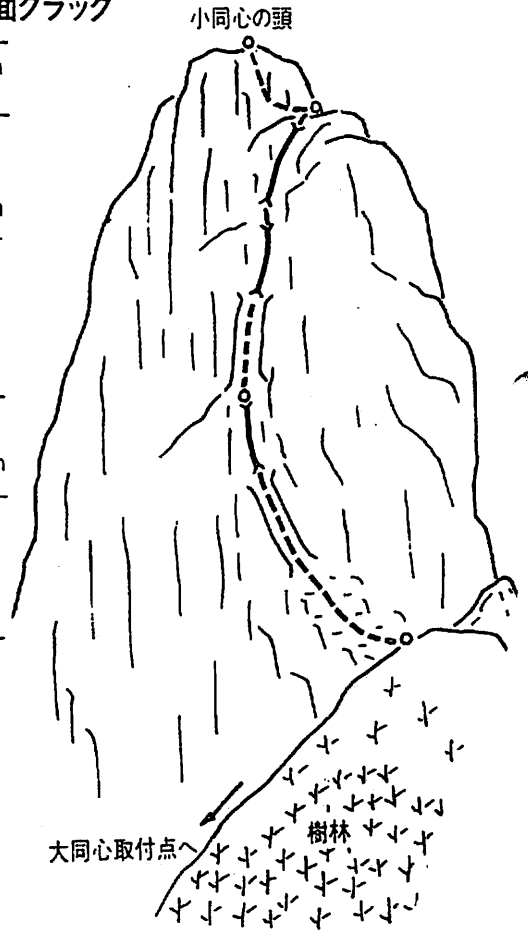
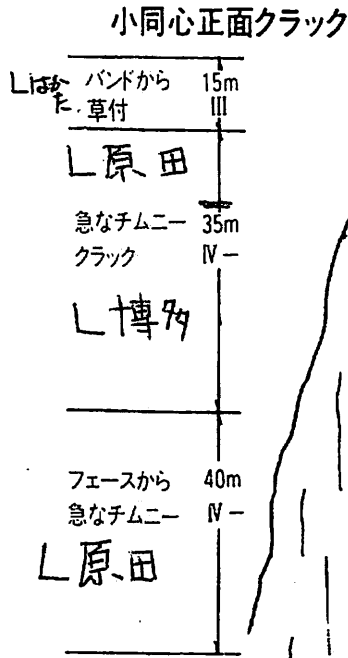
1640 B.C 着ル発

1800 美濃戸

一言!!

完全燃焼したわ!!

本当に楽しかった。



戸隠P1. 三木、前原.

2/17. 入山. 15:00 熊の遊び場上部T.S

2/18. T.S 6:00発, 無念の峰前にバス着, (ほんやくも)

7:30 無念の峰. 11:00 下降 3rd AM, (ジルバネ)

11:30 鞍場(細小セク)を経て最後の雪壁。雪壁 2P. 10. 20.

15:00 雪壁をクリアして上峰。歩いてP1へ。

15:30 下降開始。

17:00 無念の峰, バス着。

2/19. 下山. 6:00発, 11:30 入山口着。

- 核心部雪壁は雪の状態にもよると思うが、とてもやわらか、ダブルアックスは不可能。ピッケルシフトが何の抵抗もなくぜんぶはさまってしまう。支点を押さえるためにも、足場をつくるためにも、石ツブは必要だ。いくらか履いていなくとも、とても時間がかかるだろう。左右にまわすもうとするのは、尾根上にはえている木につもた雪にのることになる。注意が必要だ。実際、足元の雪がくずれ、一度落ちてしまったとにかく尾根がせまいのので中央突破しかかるとはなぞうだ。下降路としては、ほんやく下降すいはずに安全地帯まで行くことができる。

1995年2月24～26日 妙高山

メンバー：松本、上山、前原

行動：

24日 杉の原ゴンドラ終点8:50⊗-1590m カナメ10:50 ⊗-スタカット7ピッチ-
-カナメより約500m地点15:10 ⊙ 雪洞にて泊

25日 T S 7:00①-コンテ・スタカット4ピッチ-南地獄谷避難小屋-妙高山14:10 ①
-黒沢ヒュッテ17:43 ① 幕営

26日 T S 6:45①-富士見平8:20②-笹ヶ峰林道出合11:20 ⊗-国際スキー場-
-杉の原ゴンドラ15:45 ⊗

ルート：

1590m カナメから先の林道は、全くそれと判別できない。急斜面のトラバースの連続で確保が必要。また霧の時は、ルートファインディングは困難。南地獄谷避難小屋は94年夏新築で、使用可能。山頂への稜線は、下部は猛ラッセルを強いられ、上部はかなりの急傾斜でルート工作が必要。直下は2級程度の岩稜帯。山頂からの下りは、最初の雪庇地帯に注意すればあとは問題ないが、大倉乗越への登り返しは、夏道通りにトラバースするべきではない。トラバースは滑落、雪崩の危険があり、またスコップでのルート工作が必要となってしまう。黒沢ヒュッテからの下りは、ルートファインディングが難しい。笹ヶ峰林道も、厳冬期にはトレースは期待できないだろう。

感想：

火山特有の複雑な地形であるがゆえの難しいルートファインディング、日本海に面した2500m 近い独立峰であるがゆえの厳しい気象条件と半端じゃない積雪、それによる鬼ラッセルの連続と雪崩誘発の危険、人の入った形跡さえなく、厳冬期における記述資料は皆無であると思われる未知の世界であること、など、今回の登山は困難を極めた。わかんじきを常に着け、それでも膝やももまで埋まりながら夕方まで行動したのは、並じゃなく疲れた。それだけに山頂に着いた時のあの感動、下界と接した時のあの幸せはひとしおだった。3人がそれぞれに精一杯やらなければ、今回のような成功はありえなかつただろう。雪洞で一泊したこと、雪上での確保システムを体得したことなどを含め、とても充実した山行だった。

◦ 岩木山 (青森) 長平方面

メンバー: 佐々木 耕平

日時: 2/25 (土) (1+0)

記録: 9:25 ゴンドラ 駅着① ~ 11:50 西法寺森①

~ 山スキー - 滑降 ~ 12:50 グレニデ 駐車場②

感想: 天気を見てもこの日に決めた。グレニデで練習(山スキーで)したので楽しく滑れた。確かに山スキーは谷に入っていきやすい。わい。ゴンドラがあまり上までいくので良くないと思う。楽しかった。

◦ 八甲田山 (青森) 山スキー (1+0) 高田大岳

メンバー: 佐々木 耕平

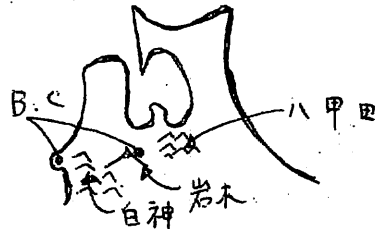
深い雪のため車が入れず中止。ゴンドラを使って別の方からの入山を頭をよぎったが、計画に入れてなかったからできなかった。下調べが足りない。反省。

◦ 白神岳 (青森)

メンバー: 佐々木 耕平

日時: 2/27 ~ 3/2 (2+2)

記録: 2/27. 天気悪く stay.



2/28. 7:00 林道入口① ~ 7:50 登山道入口①

~ 11:30 蛭山山頂② ~ 白神岳山頂 13:30①

~ 山スキー ~ 16:30 登山口②

感想: 天気予想等を見て、2/28 だけ晴れそうだった。装備はすべて持っていたので 15:00 まで山頂に向かっただけで着こなさなかつた。それから下降に入ることにした。思わぬ具合が入り、合宿よりつかれた。ルートファイナリティが驚かす。ほぼ山スキーをばいでの行動だった。いろいろ技が~~開発~~開発できた。夏と全く違う感じだが、きいた。前日、むらあ向か山の人々の家で飲みながら色々情報をしいた。やはり白神は山頂付近はめったに晴れないらしい。幸運だった。無線も持っていった他に、借りて親父に持ってもらった。でもけいたい電話も非常に使えるらしい。白神の山も登山ながら事故が多いらしい。いろいろ教えてもらった。夏の沢のぼり等の情報も教えてもらいありがたかった。ありがとうおっちゃん。

赤テープは使えろと思う。

非常に楽しく勉強になった。でも単独だからもっとしんちょうになってもよかったと思う。

南ア縦走 (塩見岳~北岳)

原田(中)・松本(中)・長沢・前原

期間 3/1 ~ 3/10 (7日実動+3日予備)

3/1 500 伊那橋
750 林道樺沢山荘前
の橋の手前
910 塩川小屋
1600 三伏峠小屋 T.S.1

3/2 440 起
635 本谷山
925 本谷山
1410 2682mのピーク
(権左衛門山)
1450 2682mのピーク
塩見岳とのコル T.S.2
ここで原田松本でから身
で約30分、塩見岳の方向に
テッセルをしてトレスをつる。
夏道との合流点でトレス
を見つけ、ひき返す。
長沢と前原は、テント設
営。

3/3 430 起
640 塩見小屋
710 塩見岳
930 北荒川岳
1330 2542mのコル
3/4 450 起
645 新野坂山付道
730 安培荒倉
1230 (N/S?)ピーク
1350 井川越
1410 熊の平小屋
ここでテッセル隊(原田・前原)
と小屋深し隊(松本・長沢)
とに分けて行動
1510 熊の平小屋は井川越
から約200mはなれ
たところにある。

2/100m付近(かたはか)
ミニ池山小屋根に
いつくべ!!
頂上直下から、シメシ
メになる。
(はすかしく、ヤメ通
って降ろさない) 積雪

今日の山行
での核心部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部



八本歯のコレ
北岳側はそれほど下は
ないが池山小屋側は
結構危険。池山小屋
側を下降する場合は、
ガイルが必要でしょう。
核心部 part II.

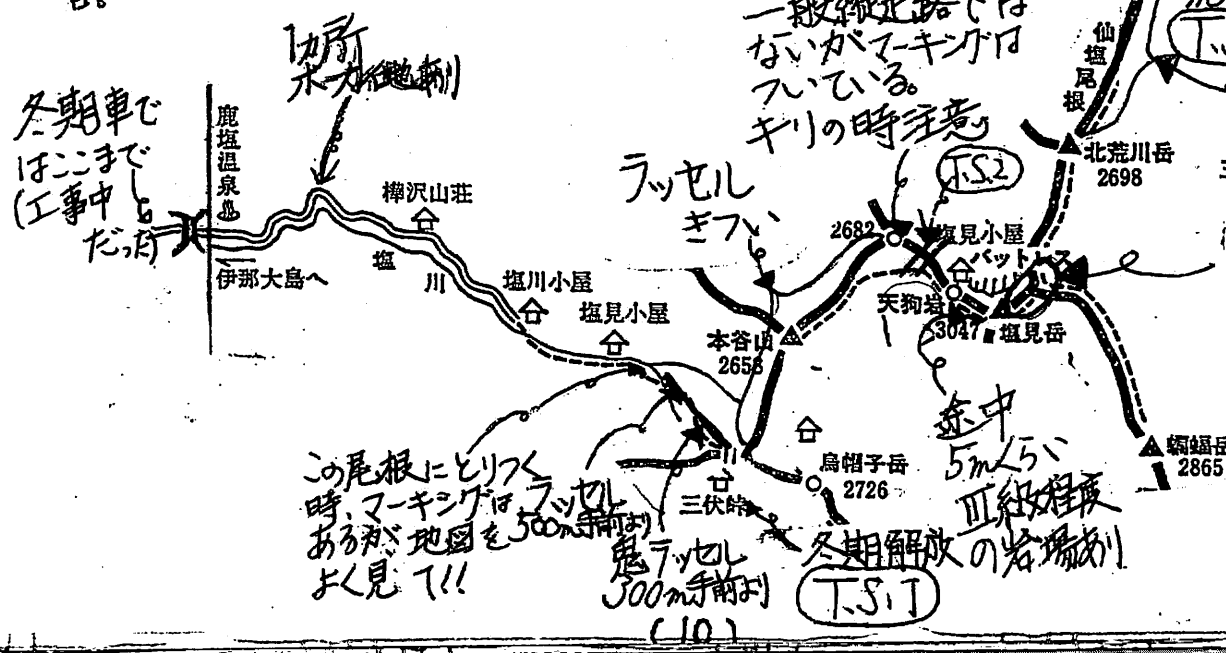
歩き沢橋の手前で、
登山口は終わる。
その付近にT.S.6を
はる。(水場あり)

荒川橋の手前のフリ橋
をわたるわがりにくい
で注意!!

3/5 430 起
700 三峰岳
1005 間ノ岳
1145 中白根山
1330 北岳山荘
1405 小屋は、コンクリートででき
ていて頑丈でいい

3/6 400 起
620 100m 行ってひき
返す。
風がゆるくなるの
を見てgo!!
1145 間ノ岳
1230 八本歯のコレ
1345 1120. 下の集落のゲ
ート
1450 ボーコン沢の頭
1700 池山小屋 この近くのペンション
1830 歩き沢の橋から70シを呼ぶ
韭崎まで¥5,000
くらい。
1315と1415、電車で
帰。

反省と感想
今回の山行は、オ自身初めての
長期山行のリターンなので、絶対
成功させたかった。無事成功は
よかった。こんなに下山が恋しくな
ったのは初めてだ。全体、反省点
としては、隊を分ける時は、シーバーを2つ
用意すべきだった。原chan



一般縦走路では
ないがマーキングは
入っている。
キリの時注意

尾根がけは
なくいやらしい

おろちして
ショートカットすると
なる!!
おろちして
おろちして
おろちして

この尾根にトリック
時、マーキングは
あるが地図を500m
よく見て!!

冬期解放の岩場あり
T.S.1

常念岳

3/11~15 CL, 山内, 博多誠, 佐々木 前原

3/11 松本=ゲト → 中房温泉 → 米ハツ分T.S トレースあり, 川崎どもと
8:00◎ 12:30◎ 13:30 14:30◎ 出会う。

12. T.S → 合戦小屋 → 燕山荘 → 燕岳ピストン 急登のぼる, 重い。
6:350 9:50◎ 12:55◎ 14:30◎ 小屋快直

13. T.S → 蛙岩 → 大天井岳 → 大天井T.S 蛙岩でさきづうがい=こける。
7:00◎ 7:50◎ 11:05◎ 11:30◎ 大天井の巻り なたし注意。
テントのポールおける。

14. T.S → 東天井 → 常念岳 → 前常念下T.S 常念快頂。前常念から下り
7:00◎ 7:50◎ 11:45◎ 12:18◎ 14:20◎ は雪崩か悪く危険。
(T.S名=松本穂高)

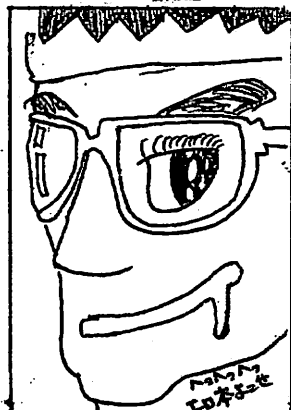
15. T.S → 大平原 → 下山 大平原, 付近で道なくなりラッセル, ころから下山
7:00

全体とおいて 天気はよく 快快な山行だった。水蒸気爆発のため横尾下山をやめた。

「冬山の素晴らしいさがほんの少しわかったような気がするよ。」



前原 徹 19才
連続の山行によりラッセル恐怖症に陥りかけていたが、今回は楽しんでとても良かった。小屋を振り出すのは楽しかったが、できれば雪洞を振りたかった。とても楽しい山行だった。



はかた まこと 3才
部外者が常念岳に入る者の虫(?)とおひましまし。おまけに体調が男勝どらラッセルできなくて、シメんなさ。ヒマジンなので気が向いたらまたさそってね♡楽しい山行ごぞいまして。



佐々木 翔平 21才
今回の山行は非常に楽しかったです。疲れもなく、すずかしいこともなく、体力があればいけるよとてよかったです。テントの中がまた楽しかったです。



1995年3月24～27日 十石岳～乗鞍岳

メンバー：松本

行動：

24日 白骨温泉9:20○-十石小屋14:20 ⊗ (初トアウト)

25・26日 悪天のため停滞

27日 十石小屋6:30○-白骨温泉10:10 ○

ルート：深いラッセル。ホワイトアウト時には森林限界上の十石小屋発見は困難。

感想：乗鞍岳に行けなくて残念だった。シールを忘れてつぼ足で登って疲れた。

1995年4月15～16日 十石岳～乗鞍岳

メンバー：松本

行動：

15日 白骨温泉9:30◎-十石小屋14:20 ○ ルート偵察

16日 小屋5:40○-恵比須岳周辺8:50◎-10:40●学術調査-小屋14:05 ◎-白骨温泉
16:30 ●

ルート：小屋まではスキーが使える。乗鞍岳への道は一か所滑落危険箇所があるが、あとは単調な稜線歩き。ただホワイトアウトすると非常に危険。

八ヶ岳・赤岳主稜・横岳石尊稜・阿弥陀岳北稜

L. 伊藤勇太郎・前原清久

4/21 17:00 伊那港
 |
 21:00 美濃戸口
 |
 22:00 赤岳山荘

4/22 ● 7:30 赤岳山荘発
 弱 |
 ● 9:00 赤岳鉱泉
 弱 |

◎ 11:00 文三郎尾根から赤岳沢に下降時にアイゼンバンド締め金具が
 折れる。

◎ 12:00 取付を確認。左にせがみのテグリ。少下下斜面にて雪割。
 (スワンディングアックス・大坂式コンテ)

◎ 14:00 雪割終了

◎ 14:30 行者小屋

4/23 ◎ 4:45 行者小屋下へ発

◎ 5:30 赤岳主稜取付、1時間ほど左沢をつめ上部の様子を見る。連日の
 雨でほとんど雪がなく、岩の状態も悪くないので下降を決定

● 7:45 文三郎尾根基部

● 8:30 赤岳山頂
 風強し | 後降歩きは雨の中、対風姿勢をとりながら歩く。

● 11:00 三叉峰へ去る。
 風強し |

● 11:45 地藏尾根下降開始
 風強し |

● 12:30 行者小屋

● 14:00 柳沢南沢下降 - この時期の南沢はとてきましく、何度も沢の中に入らざるえなから、凍った道を歩くはめになる。

● 15:45 赤岳山荘着
 弱 |

計画段階ですでにこの時期八ヶ岳の雪は登はん不可能だと聞いていたが、お通りと、連日の雨が気温が高く、霧の合間に見た八ヶ岳西壁の各種稜にほとんど雪はなく、お通くホルムもボロボロだろうと予想し、雨と風の中縦走に終つてしま、た。お通りに長八ヶ岳のアプローチは何と進んでいたろう。日帰りも可能だ。

1995年4月26～27日 北アルプス中崎尾根

メンバー：松本穂高

行動：

26日 松本-新穂高温泉9:00◎～白出沢11:04 ◎～槍平冬期小屋15:00 ⊗

27日 TS5:00○～飛騨沢経由～千丈沢乗越8:00-8:30 ○～中崎尾根経由～槍平9:47-10:17 ~白出沢11:45-14:10 ◎～新穂高温泉16:17 ◎

新穂高から槍平までの道は、横からの雪崩がこわい。真新しいデブリを何か所も越えていく。飛騨沢は、朝のうちは凍ってるからいいが、午後は底雪崩がこわくて歩けない。千丈沢乗越は、両側からの風が強く、雪はまったくついていない。厳冬期でもテントは張れないだろう。中崎尾根を少し下った標高2500m付近は、雪庇の張り出しが大きいが大人数での幕営も可能。中崎尾根から飛騨沢へは、どこでも下れる。

感想：

今年度の冬合宿の私案の下見として行ったので、きちんと偵察できてよかった。天気がよくて、誰もいなくて、とってもハッピー

1995年5月3～4日 北アルプス立山 雄山東尾根

メンバー：松本、長沢、前原

行動：

3日 松本-扇沢-黒部ダム-黒部平8:35①～雷電峰14:40 ◎～雄山15:20 ●

4日 雄山往復後、TS6:13①～大汝山～別山8:10-8:30 ◎～剣御前～雷鳥沢9:30

雪上訓練後、11:27 ①～室堂12:40 ◎-アルペンルートにて扇沢へ

雄山東尾根は、バリエーションルートにしては簡単だ。雷電峰手前でスタカット4Pしたが、特に問題はない。雄山から北の稜線も雷鳥沢も、全然問題ない。唯一の核心は、連休中のアルペンルートだ。

感想：

雄山東尾根は、簡単で少し物足りない感じ。しかし、抜けてからの稜線歩きは、風がとても強くて楽しかった。雪訓もばっちりできてよかった。それにしても、室堂での人の多さにはたまげた。東京の通勤時間かいと錯覚した。

鹿島槍ヶ岳・天狗尾根 - 赤岩尾根 5/3-4

L. 小久保陽介・伊藤勇太郎

5/3 ◎ 7:00 大谷原駐車場

◎ 9:30 荒沢登山 雪がとけては 出合がすくは尾根に取付く。2人先

◎ 11:00 1800m 台地

◎ 13:00 第1クローアル 雪は厚く、上部に大きなブロックがつかかっている。ザイルを出し、ぐちゃぐちゃの草付を木枝を利用しながら登る。その先も崩れそうな雪尾に注意しながら、スタートで前進。7時頃まで

● 15:00 第2クローアル ここでも薄く雪がのこっているため、右側の草付を登る。ここからは4時頃まで天狗の鼻

◎ 16:20 天狗の鼻下

夜北風が強く、テントが飛ばされてしまう。北風



めんどくさがり屋は、稜線に近づくと、杖を頼るわけがなくなる。

5/4 ◎ 6:20 天狗の鼻下

1ヶ所岩場が、おぼろげに2級くらいあるもの。

◎ 9:30 北峰

北峰から冷池山荘までの道は、雪は風で飛ばされてしまっている

◎ 10:00 南峰 同じ。

◎ 11:30 冷池山荘

赤岩尾根下降。冷池から赤岩尾根のトラバースは、主にトラバースで下降する。下降するにしたがい雪がへり、歩きにくく、くすねやすい。急になる。バツの上には薄く雪が敷き、急な上をくすねおろりおろりと足をはたき、1度8mほど滑り、おしま。ピッケルで何とか止めたが、赤岩尾根たどるためか、危険途中のザイルを上げる。

◎ 15:00 大谷原駐車場

・ 2人が行動がおぼろげだ。アイゼンの脱落、マウンティングアックス、支点を見つけたら、その時点で止めてかた足で歩く時の足はこぼれがさって、一夜後続パーティに迷惑を及ぼした。わかっているべきではないが、経験が足りないのと意識が低いという点。たまたまのことばかりでも、こういうまわりの時間や、不注意が、条件のきつい冬山になると命取りになる。小久保さんには何度も「お前こんなで3年生や、マけるか」と言われる。

技術的に、1ザイルでもOKだと思わしき所でもザイルを出した。それは突発的に雪がくすねたり、ブロック雪崩が落ちたときと予想されるから。また、何回もザイルを出し入れする時間がかかると、3時頃にも、おぼろげにマウンティングアックスをやった前進したほうが安全で、破損し、時間も3時頃まで変わらない。ここでザイルを出さず、アイゼンをはくか、行動を中止するか、といった見極め能力が、的確にスピーディになるように。こういう能力は下界では、ニギデは身につけるには難しい。(17)

中止になった山行

両飾山 トンビシ岩峰群 右岩峰中央稜 登はん 11/3

(L) 松本・上山・山内・前原 理由：雨天のため

北アルプス 鹿島槍ヶ岳 東尾根 1/13~17 (3+2)

(L) 松本・佐々木・深井(部外者) 理由：悪天のため

戸隠・八方曉 1/14 または 1/15 どちらか天気の良い日

(L) 三木・前原 理由：両日ともに悪天のため

木曾駒ヶ岳 1/21~23 (2+1)

(L) 原田・山内・上山・佐々木・四宮 理由：メンバーが次々に行けなくなったため

唐沢岳・幕岩 大凹角ルート 1/21~24 (3+1)

(L) 松岡(部外者)・長谷川 理由：不明

戸隠西岳 P1尾根 1/28~30 (2+1)

(L) 三木・長谷川・上山・原田 理由：メンバーが次々に行けなくなったため

前穂高岳 北尾根 2/15~23 (5+4)

(L) 山内・石田 理由：氷蓋が爆発で国道が通行不能だったため

北アルプス 槍ヶ岳 北鎌尾根 3/17~3/28 (7+5)

(L) 松本・原田・岸 理由：松本が凍傷のため

乗鞍高原から乗鞍岳往復 山スキー 3月中に予定 (1+0)

(L) 壺田(学士山岳会)・松澤・山内 理由：不明

中央アルプス 宝剣岳 中央稜(CMC) 12/16~12/17 (1+1)

(L) 大橋(CMC)・吉井(CMC)・長谷川 理由：悪天候で雪崩を警戒したため

南アルプス 甲斐駒ヶ岳~仙丈岳 4/14~4/17 (3+1)

(L) 岸・原田 理由：岸が多忙であったため(察行等)

富士山 4/22~4/24 (2+1)

(L) 原田・博多(部外者)・佐々木・長澤 理由：悪天を予想して中止にしたため

1/15 日 山スキー 管平スキー場から根子岳往復

(L) 壺田(学士山岳会)・松澤・吉村(部外者)・安保(部外者)

3月中予定 月ルート

(L) 壺田(学士山岳会)・松澤・山内

この2つの山行については
中止かどうか不明です。

(文責・前原)

プレ冬合宿

プレ冬合宿の反省と感想

3年 松本穂高

初めての合宿リーダーを務めたが、精神的にとっても疲れることが分かった。でもまあ無難にこなしたんじゃないかと思っている。1日目の予想以上の深いラッセルと、2日目の悪天のため、白馬岳の山頂に行けなかったのが残念だったが、少しでも吹雪の中を歩けたので、1年生にはよい経験になったことでしょう。

◎プレ冬合宿記録：佐々木

12月2日

松本B.O.X (6:00) → ① 榎池 (8:55) → ① 榎森 (9:10) → ① 6ピッケル (2ピッケル) (9:45) ②

目からラッセル) ~ 天狗原 B.C (15:20)

12月3日

起床 (5:30) ②, B.C 発 (7:30) → ② 2ピッケル → ② 白馬乗鞍山頂 (9:50)

~ B.C 着 (10:45) ②

12月4日

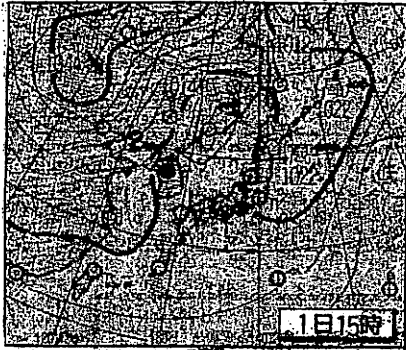
起床 (5:30) ②, 撤収 (6:45), B.C 発 (8:05) → ② 3ピッケル → ① ゴンドラ着 (11:20)

~ 松本B.O.X 着 (13:45) ①

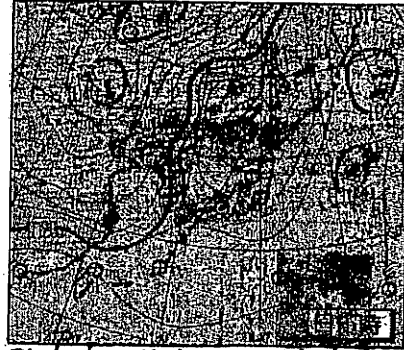
記録・気象の反省：佐々木

今回は代役で記録・気象の係をやることになったが至らなかったことがあった。2日目の天気図がとれなかったことは非常に反省している。天気によって進退が決まる状況でのこういうミスはとてつ虎狼だ。大変申し訳ない。これからはこういうミスは絶対しないよう努める。高層天気図はまだ時期が早く、とれなかった。記録は概ねうまくできた。

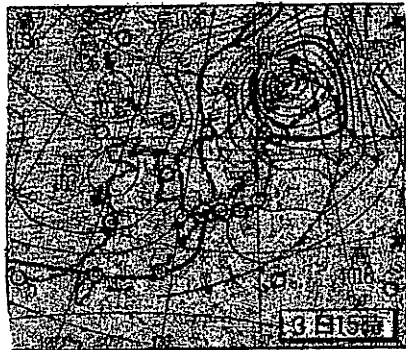
⑨ プレ冬合宿気象：佐々木



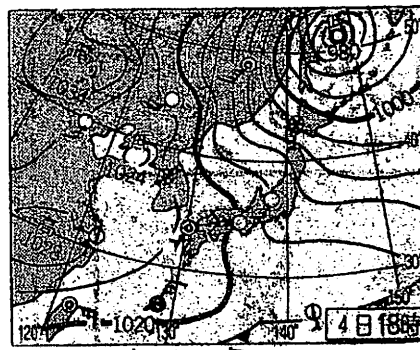
冬型が強まりつつある。
雨のエリアも多し。



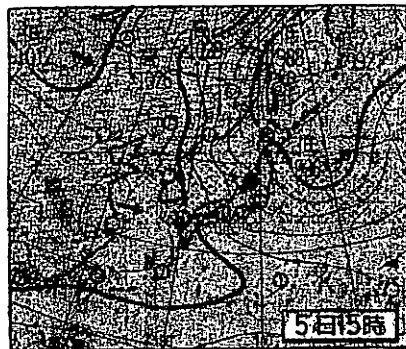
発達中の低気圧が日本海に、また別の
低気圧が南岸沖を通過している。
北日本では大荒れとなっている。



強い冬型の気圧配置
北日本、東北、日本海側では
吹雪となる。山地は雪。



冬型の気圧配置。
山沿って北部や西部の長野県境
を中心に雪。



強い冬型の気圧配置。
日本北部は大雪となっている。

- ・合宿を通して強い冬型の気圧配置が続いた。
- ・悪天をみこんで合宿を1週間ずらした山岳部もあるようである。

(朝日新聞・信濃毎日新聞より)

ほうたゆうすけ

No.

Date

7°し冬の装備の反省

竹ペグ 1本 残置
カラビナ 2個 残置 ← 大問題
メタ 22本 消費
白カス 2.0L 消費

1人1泊 ⇒ 83ml
これは空だし、かまぐらでの使用
を含むので実際は、かなり
1人1泊の値がへるでしょう。

今回、袋の中に何が入っているのか全員に
わかってもらえなかった。

1) ジョウゴは 3フテントがあったのび×3にすべきたった。

2) 次回は冬合宿で行程も長いのび、もう少しスマートな
装備にすることが成功の第一歩といえる。

反省、ほうたゆうすけ
つかれたの一言につまむ。
せめて地図は、ウェストポーチに入れておくべき
だった(すぐに焚せるため)
次回は、きちんとルートファインディングができるようにする。

感想

1日目

クラタン作りに燃えた。あんなにエッセンに気遣いをこめたのは
初めてだった。

2日目

からくら作りに燃えた。最初からくら作りなんか絶対
やるか、と思っただけ。気付いたらシャベルをもって雪をか
いていた。あんなに一心不乱になったのは、久しぶりだった。

3日目

山はや、ほりきれいだ。また登るぞと思いつつ。
おしは下界に戻った。

上 山 祐 貴 子

フオレ冬の反省

- エッセンの反省
- ・ 初日の(グラタン)メニューは、説明が大まかだったせいもあって、各テントごとに違いが出来た。今まで通り慣れたメニューにするか、新メニューを入れるなら、手順etctを詳しく書くべきだった。
 - ・ 食料の各テントへの配分が、手間どった。冬合宿ではテントごとに(おやつ)(夜)(朝)(レーション昼)と分けやすく、すぐ配分できるようにしておくべきだと思います。
 - ・ 調味料も各テントごと分けてないものがあり、不平でした。漬けもの、調味料もきちんと分けるべきだと思いました。

- 個人の反省
- ・ ルートファインディングが甘いと言われた。その通りだと反省する。地図を常に見るくせをつけたい。
 - ・ エッセンの時とか、1年の人数が少ない分、自分もできるかぎり参加したいのが本心です。だけど「もっとこうすべきじゃないのかな？」ということが言い出せないの、何とかすべきだと思えます。(自分の中で)
 - ・ 学年の立場としての役割を果たそうとも、心に留めていざした。今の自分に出来る事を探っていたように思います。まだまだ欠けている部分も多いことわかります。補充していくには、時の方が早く過ぎるのかもしれませんが、少しずつ改めていきたいと思えました。
 - ・ 大きなかまくら作ったり下界じゃできない事が、いっほいでできてすごく楽しかったです。

アレ冬 感想・反省 とき

天候が悪くて残念だったが、よいとはいえない猿
の中での行動は、のちのち役に立つ経験だろう。
装備に不完全な部分があった人は、それがわかた
に違いない。

今回、3つのテントでそれぞれに食事をついたので
いろいろと不都合がわかった。調味料や食料の
配り分けなど、問題点がわかったということは大きな
収穫であるし、反省点でもある。

すばらしくうまくいった山行ではなかったけれど、
その中で多くの得るものがあったに違いない。
何もなかったという人は、もう一度よく考えてこの
山行から何か学びとしてほしい。
冬合宿へむけて、そういったことも考えてほしい。

合宿の反省 長澤 徹哉

今回の(アレ冬)合宿での反省点は次の2点に
しぼられる。

技術面ではルートを見誤る事が多かった点、
とくに雪の中であつたので、ラッセルで体力を無駄に
しないためにもよく地図を確認するようにした。

生活面では、すでに数回の合宿を経たいま、
細かなことで「できずらい」ということはないはずなのに
これから生活の全体、つまり流れとリズムを
つけるように心がけた。迅速に動きこぼすは
集中してのぞきこくべきだった。

体力面・遊びの面(かまくら作り)では楽しい
合宿であった。雪景色に興奮する山行でもあった。

わかんは大失敗だった。今度までにゆるんだりしないように作りなおそう。やわらかい雪の上は、なかなか前に進めなかった。前に進むどころか、足の置き方が悪くて、雪の中に沈むことも多かった。もっと雪の上を歩き慣れるようにしたい。テントではもっとテキパキ動けるようにしたい。雪山はとてもきれいだった。雪を食べるのも楽しい。ともかく山は雪があるとたいでは全然違うと思った。

・反省と感想…佐々木耕平

彼の方が至らなかった点があったのが残念だ。
 ラッセルは能率よく進めるなと再び思った。ずっと列の後ろの方から前を見たとき、長く続いてるパーティーとその先頭でガツガツがんばってるトップはとてまたのもしくみえた。
 シーションと風めしをほとんど食わなかった。たとい腹がへってなくてもやはり食ってくべきであったと思う。
 撤収をもっときわよくやらなければいけないと思った。

後藤 光章

-感想-

雪上の歩行はかなりきついなと思いました。
 足をひっこ抜くのが大変で(特にわかんの方に埋まってしまうと)足がひどく疲れました。

-反省-

ザックの肩ベルトが短いのとザックの重さでいつもザックを背負うのが遅いのが反省点です。
 疲れてテント内でぼー、としてしまう事があったのが良くなかったと思います。テントを張り終った後に何をしても良いか分からない事がありました。
 ラッセルが遅いのに続けようとしたので良くなかったと思いました。これからスピードが乗らない時は人にすぐに賛わそうと思います。
 ルートを自分で見つけようとしなかった(地図を見る余裕が全く無かった)のが悪かったと思います。
 どうも返事をしていないようなのできちんと返事しようと思います。

7°L 冬合宿について

反省

私にとって冬山は初めての体験であり、それ故に改善すべき点が多い。それらは生活面でのことが多い。テント内での個装の整理がうまくできていないため朝起きてからいろいろ探すのに苦勞する。アイゼンの手際が悪く、上級生にたよってしまうことが多い。パッキングから出発前の体操まで下手に時間がかかるなどである。いろいろ工夫して次回から少しずつでも改善していくつもりだ。行動面については手袋や服の重ね着が適切にできず、非常に暑かったり寒かったりしたのでレイヤードもまめに行ないたい。行程は短く、荷物自体どう重くなかった。たのびにバテることもなかった。ただ今回の山行ではアイゼンをつけて歩くことやFix通過など技術を要するようなことができなかった。冬合宿がもしラッセルに終始するようなことになれば、個人山行にこれらのツケがまわってきそうて少々心配である。後、飯の喰いすぎで本当に苦しい(酸欠かと思つた)思いをしたり、フライシートを破ったりしたのでこのような失敗も無くすよう努力しようと思う。

感想

みんなでかまくらを作ったり、雪合戦をしたりして雪遊びができてとても楽しかった。次回は雪だるまもつくりたいと思う。このような雪遊びができる余裕があったことを本当によかったと思う。しかしその反面、白馬岳のピークを踏むこともできず行程も短かかったため不完全燃焼感で、いほいち不満も残った。

I年 前原 徹

7°L 冬について

石田 晴

1. 雪の上での歩行は思っていたよりもかなりきつかった。もっとトレーニングをする必要があると思つた。
2. テント内でよく物をなくしたので、整理をしておく必要があると思つた。
3. 調子によって飲みすぎで同じテントの人々に迷惑をかけたことを深く反省している。

白馬岳の山頂に立てたかしの幡が印象であった。

反省と感想

岸 秀 蔵

行く前にいつも合宿ではしかり行動してやろうと思うのだが、今回も途中で気持ちくじけてしまった。ここで反省することが非常に残念である。まず、行く前から自身の冬山に対する認識の未熟さが、今回の合宿に対する気持ちを、楽観的なものにしてしまい、登り始めてから、雪山での行動のキツさも知って愕然とした。また、装備についての知識不足から、スノーシューやテッドマンの意味が分からず、とまどうこともあった。そして春にやりも失敗したのは、ワカンのひもにアネ油を塗らずに出発したので、ひもが凍ってうまくつけることができなかった。

行動中は、ラッセルが遅々として進まないのに行き先、こんなルートなんて余裕だと思っていた気持ちが、見事に裏切られたのにショックだった。ヒョウ身の時にもグターと雪の上に座しては、地図を開いてルートを見ることもしなかった。天狗原にテントを張ることが決まった時、あせっていた気持ちがゆるみ、整地している時にカラビナをなくしかけた。テントでの生活ではエッセンの細い事なまで考えが及ばなくて、何度も注意された。

2日目の行動でも地図を見ることもせず、先輩に言われた方向にただガムツアラにラッセルするだけであつた。

合宿が終ってから感じた事は、これが長期間の縦走なら、たつきとリボっているだろうという事です。冬合宿では同じ失敗を繰り返さないようにしたい。そのためには冬山に対する知識をも、と高める努力をする。

1994年12月24日～29日 冬合宿 北ア・樺海新道

メンバー：長谷川、三木、松澤、松本、上山、原田、山内、石田、岸、後藤、佐々木、
四宮、長澤、前原

行動記録：

24日 松本4:30-親不知8:32○～坂田峠14:44 ○

25日 停滞 午前● 午後◎

26日 T S 6:39①～シキ割り～白鳥小屋12:22 ①

偵察隊 長谷川、松本、山内、長澤、前原 白鳥小屋13:00 ～1092m のコル13:50 ●
～白鳥小屋14:40 ①

27日 停滞 午前● 午後◎

28日 停滞 偵察隊 三木、松本、原田 白鳥小屋6:15◎～1150m のコル(ABC予定地) ⊗
～白鳥小屋11:24 ◎

29日 白鳥小屋7:00⊗～坂田峠11:49 ⊗～親不知14:55 ⊗

ルート概要：親不知から林道横断地点までは雪もほとんどなく問題ない。その先坂田峠までは雪は次第に深くなるが、やはり問題ない。坂田峠から先は傾斜が急になり、下りでは輪かんじきをはずした方がよい。シキ割り付近は変な地形で、ちょっと迷いやすいかもしれないが、地図を頼れば簡単である。1171m のピーク付近から先は視界があれば全く問題ないが、霧の時は尾根がだだっ広いのでRFに苦労する。また東側への雪庇に要注意。白鳥小屋は裕に20人は収容できる。2階建のとても快適な小屋だ。白鳥山から先は急傾斜のアップダウンの連続となる。最初の下りで一か所 fixロープを出した。1241m のピークや1209.8m(菊石山) などであらうとするとルートを誤るが、確実な読図によって難なくクリアできる。菊石山の次のコル1150m、ここは今回の最高到達点であるが、とても広いコルで、テント3張りも余裕でしょう。平均積雪約2m、ラッセルはひざくらいでした。すべて樹林の中のルートなので、見通しが利かなくRFには注意がいる。ただその点を利用して、樹林は風よけになるのである程度悪天の中でも行動できるとも思う。

係からの反省・個人の反省と感想：

装 備 の 報 告 と 反 省

ガス消費量 5.25e 消費
3-スリ 6.5本 消費
メタ 27.5本 消費

(1人1泊あたりに概算)

ガス 75ml メタ 0.39本
3-スリ 0.09本

その他装備に残置したもの

竹ポール 40本 残置 赤テ-7°90m
赤布

。反省 - なんといってもガスを2.5e分忘れたことである。完璧にオレの確認ミスです。すいません。フシ冬の反省を生かして、改善した点は、

- ・スリップを3本にした(整地を早く行なうため)
- ・ジョウゴをテントの数(3コ)にした。
- ・マンドリンを1つのMSRセットに4I入れた
- ・雪袋の袋を新たに作った。
- ・白ガスを110ml → 90mlにした。

自分自身は、みんなに装備袋の中は〇〇が入っているとか、かなり強めに依えたつもりだったがなかなかわかってもらえなかった。そのため、ちかう袋の中にちかう装備が入っていることがあった。

。感想 - フシ冬の前まではエッセンしかやったことがなくて、装備にはあまり関心がなかったけど、こう装備もやりがいがありますね。不満ももった君、来年2年になたら不満な部分を~~備~~改善して、よっよっものにしてちょったい。

もっと装備に神経質になろうかな
(番号を全部、装備につけるのもいいと思う)

ほらだゆうすけ

。反省…地図に石炭北線を引かんかったこと。
がスるえと忘れたこと。

ルートもまちがえたり見当がつかんことがあったこと。
心の中にスキみたいなものがありました。
でも、前回の反省を生かすことはできたので。
納得のいく合宿ではありました。

。感想…山登りとは、そもそも何だろう？

楽しい山登りとは何だろう？

最近そんな想ひが俺の頭によぎる。
んーんーん顔がちがうように、山の考え方も
一人一人ちがう。すべての人に教われながら
またちがった楽しさを知る。最近、前にしか
目が行ってない自分にきづいた。思い通りに
いかんことを、お茶をにごしている自分にもきづいた。
まだまだやらなかんことがたくさんありすぎる
から、一つ一つこなせていけばいいなと思う。
何かわけのわからん文にハマったけど。
これが冬合宿の反省です。

感想と反省

四宮佳代

雪が少なく、あまり寒くなかったことは驚いたと同時に
ホッとしていた。もしも首までのラッセルだったなら、とても
ついていけなかっただろう。雪が少なかったとは言え、ルート
ファインディングは私にはまだ無理そうな気がした。地図
の読み方も教えてもらうとよく分かるのだが、自分で見ると
自信がない。天気図もそうだ。課題はたくさんある。が、
雪山のカモシカを見ることができたのはとてもうれしい。
冬の山の動物や植物を観る余裕ができるくらいに力を
つけたいいものだ。

冬合宿を終えて。

C.L. 長谷川哲也

とにかく、結果を見ればどういふが、僕はあとで、やるべきことや、やることは全てやったと思う。現状で、全力を尽くした結果であったと思う。不完全燃焼だった者もいるだろうし、リーダー・部員、判断に疑問が湧く者もいるだろう。僕は山で“かけ”としてはいいかと思っただけだし、したくない。しかし油断のできない山域であり、なにしろ羊合が一年生だったし、松沢は久しぶりの冬山だった。

とにかく残念だった。僕も、もとも、とやりたかった。学んだことは、引き帰る勇気だったと思う。

冬合宿の反省と感想 I 前原 徹

反省—— プレ冬合宿の反省点を1つでも改善することが冬合宿の目標であった。個々の整理を注意して行なったので道具を失くしたり、起床の後で縛り手やヘッドライトを探し回るようなことは無かった。またエ・センのときもきちんと参加することができた。ただし、ジョブフェルやスポンジ、食器など団装の行方がよく分からなくなることが多かったので注意しようと思う。それと、小屋の外で遊んでいて体がぬれて寒かったので、次回までの反省点である。また今回の合宿の行なわれた山域は日本海側でしかも低山であるという条件のため、様々な気象の状況が体験できた。停滞もくらった。そこで山行の成功のためには、その山域のもつ特殊性をよく把握すること、加えて、荒天の見極めとパーティー全体の能力の把握による進退の決定が不可欠と思われる。そのためには様々な山域に、様々な時期に山行を組んで、その山域のもつ多様な面を体験することが重要だと思った。

感想—— 悪天候のため犬ヶ岳へのアタックができなかったのは残念である。しかも期待していた程の降雪もなく冬山らしくなると同時に下山になったのはかえすがえす残念であった。でも停滞のときに、みんなとトランプしたり話したり雪洞を掘ったりしたので合宿としては楽しかった。しかし、哲也さん、三木さん、松沢さんとは長期の山行を一緒に行なうことがほとんど無くなるので、そのことが最も残念である。

反省

山内 哲文

まず 気象の係として、準備不足だった。入山一週間前からは天気図や雲の写真に注意して、冬型の周期、寒気的位置などを調べておくべきだった。また観天望気や高層気図の書き方など勉強しておくべきだった。入山中の天気予報はラジオ気象図でまあまあよくいったように思う。

この合宿で僕は山での行動判断の仕方について勉強になった。特に今回の合宿の核心は28日の夜のミーティングでの「30日の好天を以て、アタックするか下山態勢に入るか？」の判断だったと思う。僕は当然アタックできるだろうと単純に考えていたけど、哲也さんは、パーティーの力量が不正確なのと、好天の後の冬型気圧配置の強さなどを考えて下山の判断だった。軽はずみに「行けるんじゃないか」と思ってしまった自分はまた「また」青かった。前進する時には常にその進んだ場合のリスクの大きさを考え、そのリスクと下山を考えた方がいいんじゃないと思った。「私は青かった。(I was so blue that...)」

感想

日本海が荒れている。「このカハ荒波の日本海か」と実感できた。また小屋の快適さ、雪洞掘り、大高ごうのおもしろさ、前原、岸の幼なさ、石田のまよさ、哲也、ほ高のぶなさなど新しい発見があった。

冬合宿の反省と感想

3年 松本穂高

ガスの中でのルートファインディングにまごついてしまった。

偵察隊に2回とも参加でき、よかった。

仲間とのコミュニケーションが弱い。リーダー会などの形式的な場でだけではだめなんだ。3年が一人だけという安堵のいすにはまり込み、安泰と豪語している自分は、パーティーでの存在意義が薄くなっている。

石田

今回で2度目の冬山であったが、思っていたよりも楽な山であった。ゆえにそれは雪が少なからずあることはよく分かっているので、油断せずに、トリーニングをいかにしていきたい。小屋泊まりは最高だった。天気図の練習をしようと思う。

冬合宿の反省と感想

(反省) 初日がとてもつらかったです。荷物が少し重くなると前傾するくせがあってすぐ腰にきて苦痛になる。トレーニングで改善していける点、だと思つので、直したいと思う。

感想 → 犬ヶ岳の登頂ができず残念でした。

天気や力量から安全性を考慮し、決断するには主観的客観的視点から見なければいけなくて、冷静さが必要で難しいことだと思いました。

エッセンの反省

準備で買い忘れがいくつか出て手間だった事が最大の反省点です。

昨冬よりも調味料をフィルムケースに入れたのは良かったと思う。

味の点での改良と、軽量化の両立ができず多くの Needs に耳を傾けようとしたら、重くなり、この約一年のエッセンは、ちょっとだけ後ろ髪引か

れています。だけど、いろいろ自分の意志を入れられて楽しかった事も多かったです。合宿後の食料の残りの管理と整理にまで

注意が配れなかったのが、くやいです。ちゃんとストックしていれば、買い足さずに済むものも多かったです。

上山 祐貴子

94年冬合宿の感想および反省 長澤 徹哉

日本海を眺めながらの下山だった。合宿を終え、また雪をかぶった山に行きたいと思う。そして、これを必要だとも考えないといけないだろう。この合宿をもって冬山の技術が身についたとするにはかなりの不足があるからだ。日数が短かったことと雪の不足に原因があるとおもうので、個人山行で深い雪を知りたい。

そのためにも、今合宿ではおかしことは迅速にできるようにすることを目指したが、それを緩慢なところなくできること(生活技術)が大切だと考えている。

体力的に余裕がなくてはいけません。

- 冬合宿は肉体的にも精神的にもひたすら「うら」ものだと
 思っていたが、ずいぶん楽な合宿だった。
 たいてい行動できなかつたし、雪がないのがひどくつまらな
 かった。なせも、と現地の状況を詳しく調べておかないのが
 悔まれる。しかし部員みんなと楽しく山小屋で過ごしたのも
 いい経験だった。
 反省は、テント生活が1泊と短かったので、あとの小屋泊りで
 緊張がとけてしまひ、伊装の製理が徹底しなかつたこと。
 最後の下山の時に、前の人についていけなくて体力の無さを
 知ったこと。下山の時に地図をよく見なかつたこと。

冬合宿の反省、感想 (三木)

今回の冬合宿は天候が悪く、不完全燃焼だと思ふ。

しかし、与えられた条件、準備していた計画の範囲内では、

メンバーはそれぞれに最善をつくしたものと考える。

大が岳にはアタック隊もせせず、ていさう隊を2度だした
 だけだったのが残念だ。

現場で、「もともと計画が悪かつた」「予備日をもつておけば
 のぼれた」「現地の状況の知識不足だった」というのはわかる。

~~それ~~たしかにそうであつたらうとおもうし、それは反省材料である。

けれども、そんな言葉が簡単に口に出してくるのは変ではないか。

リーダー会で、リーダー部員として決定に参加したという意識が
 うすいのではないか。

「リーダー会でこう決まつたから」ではなく、「リーダー会で、(自分が)
 同意してこう決めた」という意識をお互いにか持ちたい。

そういう意識があれば、同じ「やっぱりあのときこうしていれば」
 という言葉も、反省のことばにこそなつても、誰かをせめる言葉には
 ならないはずだ。その意識がなければ、そういうリーダー会で
 なければ、山行リーダー一人にストレスが集中することになつて
 しまつたらう。

今回の山行は成功こそしなかつたが、得るものもまたあつた
 と思ふ。次の山行へと、こころをつなげていきたい。

反省

- 今なに何袋に何が入っているのが良く分かっていない。
- 食器に何ml コッハルに何Lの水が入るのが分かっていない。
- テント内での物の置き方がまずい。
- 天気図の読み方でよく分からないとあきらめる。
- 深いラッセルでは短足のせいで足がひっこぬけず前進に時間があがる。
- 相互理解がうまくいっていない。
- 山岳会の優秀な部員ではないという自信がある。

感想

日本海を横目に見ながら山に登っていくというのはとても気持ちの良いものだった。樹林帯で雪は少なかつたが様々な生き物の足跡が残っており冬の山でも活発に動き回っている生き物たちを感じさせた。特にカモシカを3度ばかり見つけて、カモシカという動物が決して高い所には降りるのではなく、冬などはずっと低い所にもおりてくるのだというのは新しい発見だった。あとウサギは新雪では沈まないように足の指を広げて歩いているらしくずっと大きな生き物の足跡に見えるという事にも気付いた。今回の合宿は荷物を皆でまつ事になっていて、全体としてははずと多くの荷物を持っていくのに個人の荷物としては夏とさ程変あらない重さだったので、ゆくり歩くが少しだけ心にゆとりがあり、いろいろな物を見て学ぶ事が出来たので、僕自身としてはとても満足している。長い沈殿と犬ヶ岳への登頂が出来ない為にある人は活力を尽したり、またある人は無気力になっていたりしたが、実は山岳会の部員としては、そうなるのが本当で、長い沈殿を良い事に双眼鏡で広がる風景や生き物たちの世界をながめて満足しているという事、「登頂」という言葉をこね程まで意識していないという事で、僕の山岳会の部員としての非優秀性、欠陥を再確認してしました。まあそれはさておき、あの吹雪や寒さの中でショラフもく眠り、プラ靴も無く雪面に足跡を残す生き物たちはどう思っているのだろうかというのがとても気になった山行であった。彼らも僕等が下界で「寒ー！」とさげんでいる時には山の中で「寒ー！」とさげんでいるのであろうか。風邪などめさぬように……

冬合宿の反省と感想 佐々木 耕平

僕は今回の合宿でいろいろ勉強できました。冬山で撤退することの判断の難しさも思いもしりました。向故予備日を多くとるか等、身をもって体験できてよかったです。天気圖の読み方も ~~また~~ 改良する点がありました。天気も先を読んで向日も後の行動まで考えているのはすごいと感心しました。僕自身のことでは概ねキチンと行動できました。ただ緊張感がいかにぬけてしまったような気がしました。朝の行動(準備)が少し遅れたことや、もっとぬれないように気を付けるべきでした。楽しい合宿でもおかげです。ちなみにルートファインディングも非常に難しかったです。

平成6年度
大学山岳部リーダー春山研修会 報告書

記・伊藤秀太郎

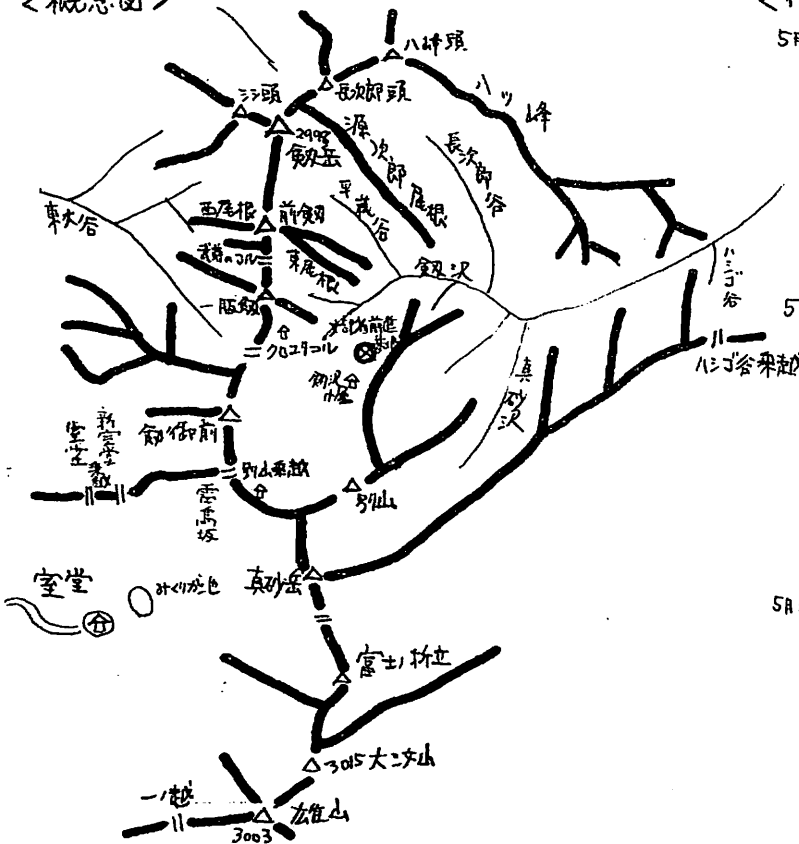
主催・文部省 後援・日本山岳協会 期間・5月14日(土)～5月20日(金) (講義2日間実技5日間)

平成6年度 大学山岳部リーダー春山研修会日程

日	時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
第1日	5月14日(土)	受付	集合	講義 登山の歴史 (松本)	講義 登山の歴史 (松本)	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地
第2日	5月15日(日)	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地
第3日	5月16日(月)	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地
第4日	5月17日(火)	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地
第5日	5月18日(水)	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地
第6日	5月19日(木)	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地
第7日	5月20日(金)	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地	登山 実地 実地

注 第3日目以降の日程については、天候その他により変更することがある。

<概念図>



<行動記録>

- 5月16日 ① 7:00 登山研修会 - 5人1組で14班に分かれた
- ② 9:00 室堂
 - ③ 10:50
 - ④ 13:10 御前小屋
 - ⑤ 13:40 前進基地(BC) 茶堂
 - ⑥ 23:30 強風のため7b,7cを避け、他の班は11cがホールホールド
- 5月19日 ③ 3:30 起床
- ④ 6:00 5山北斜面にて雪割
 - ・アイゼン歩行... 直上・直降
 - ・グリセド
 - ・ヒョケルスト?
 - ⑤ 14:00 BC・夕食
 - ⑥ 16:30 真砂山小屋近くにてハイマックのビバーク
 - ⑦ 23:30 雪洞を降り、雪洞の中に入った
- 5月18日 ③ 3:00 BC 朝食
- ④ 5:30 雪割
 - ・スタディングアックス
 - ・タイロ→パピ
 - ⑤ 11:00
 - ⑥ 15:30 前進基地にて早稲田の遊覧にこいこ話し合う
 - ⑦ 18:00 BC 夕食

18:40 志山病と肺炎の2名を
20人以内で御前小屋
まで搬送

19:30 御前小屋

21:00 BC

5月19日 05:30 起床

08:00 奮闘
【スライディングアークで引山に登る】

① 14:00 引山山頂
【搬送をBCへ】

② 17:00 BC

5月20日 03:00 起床

05:50 BC発

07:00 引山山頂

08:00 真砂山山頂

09:10 雄山山頂
9:45

010:15 一越

① 10:50 食堂

① 13:00 登山準備終了

① 16:00 解散

<確保技術>

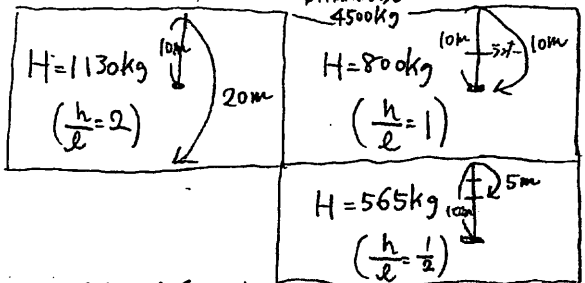
- ① ナイロンの特徴
- ・ナイロン(繊維)は紫外線により劣化する。(70%の場合: 240時間)
 - ・240°Cの熱で溶融
 - ・最大伸率 50%
 - ・最大張力(ただしこれは静かに引いた場合)
 - φ11mm 2500kg
 - φ9mm 1800kg
 - φ6mm 900kg
 - ・滑走による張力は下いた1240kg
 - ・一度滑走の衝撃が加わったナイロンはどんなに新しくても使用不可

② ビレー

- ・ナイロロープ(繊維自体は)水を吸わない。水を合んでおもりになったり、こぼれたりするものは繊維粗間にたまった水分である。
- ・ビレー解除というコルは使用しない方が111。トップがまず自己確認して「登りたい」「登らなければいい」。コルは最小限におくこと。この「ビレー解除」という言葉をトップが叫ぶ時にくせで言ってしまう事故になった例がある。
- ・安全係数 = $\frac{h}{l}$ (滑走の距離) / この係数「2」が最大 l (フックの距離)
- ・衝撃不加

$$H = \sqrt{2 \cdot K(\text{張力係数}) \cdot W(\text{体重}) \cdot \frac{h}{l}(\text{安全係数})}$$

φ11mmの場合 4500kg



- ・自分の体重以上の垂たになるとスライディングアークは不安定になる。
- ・ナイルフレーション(岩・自然の木)を必ず使った方がいい使用例など。最上確保では(スターゲイト)せいせい350kg。

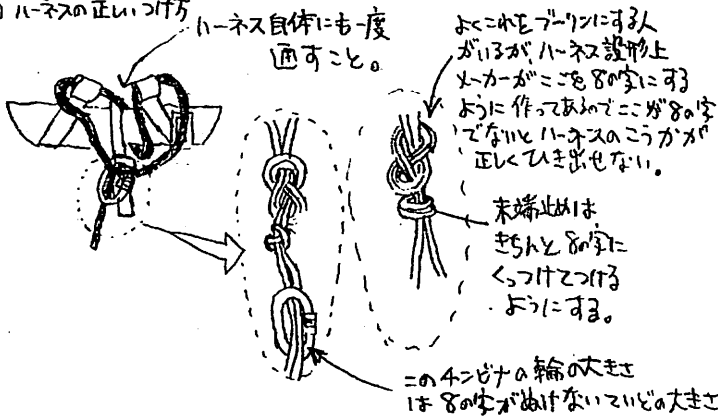
③ 支点

< ギャイル技術 >

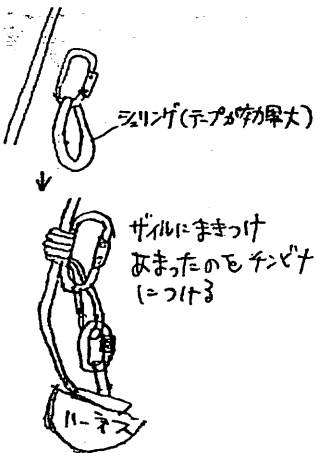
○ ほとんど小委員会なら、通りのここの説明だが、下記にあることが目新しいものがあった。このギャイルを説明してまいりたので、実際にギャイルも使って練習したほうがいい。

- ① ハーネスのつけ方・シートのハーネス(4ヶ所通す)
- ② ギャイルのたため方(背中にしようやり方)
- ③ バックマン(カラビナを使ったユマールみたいなもの)
- ④ まきつけ結び(バックマンをひもでつけて作ったもの、コルジックより使える)
- ⑤ けんすい日時の2本のギャイルの結び方(ダブルスリッパマンでつけよりすぐはまど(ける))
- ⑥ 腰ひもを使った脱出法(頭が下になった場合に持ち上げる)
- ⑦ その他

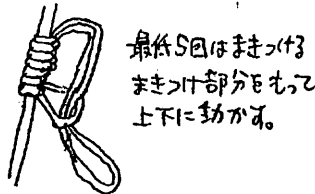
① ハーネスの正しいつけ方



③ バックマン



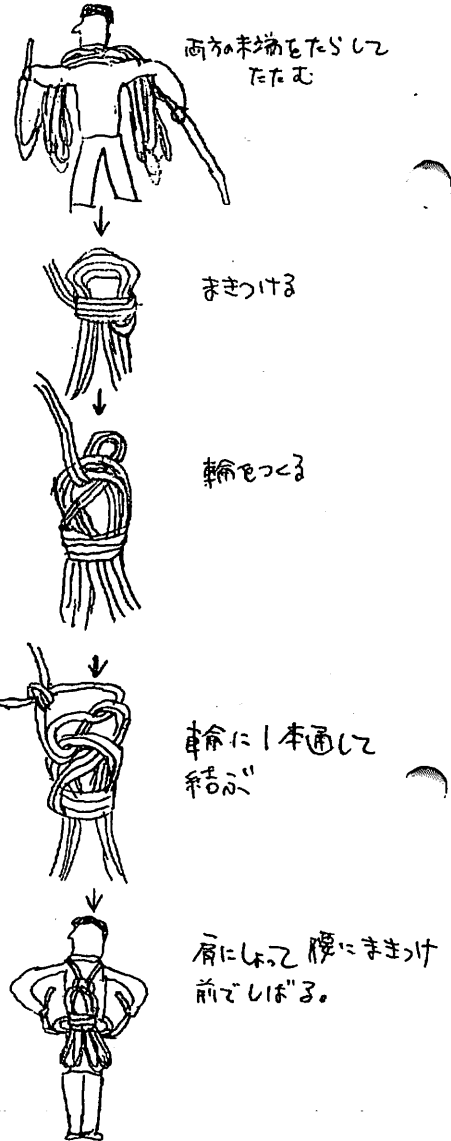
④ まきつけ結び



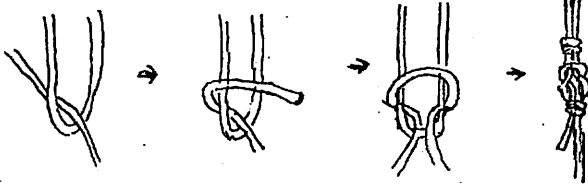
③④ともユマールの代用として併用できる。フルジックのかわりに使える。腰まなどの時はフルジックは作るのに時間がかかるが、この4つはすばやく作る。

③の欠点は何かある時にどっかにひっかかると落ちてしまう場合がある。④と同じような感じでスネーク結びというものもある。

② ギャイルのたため方

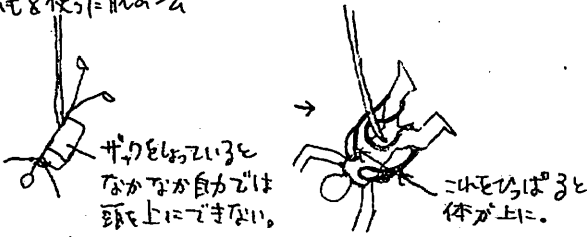


⑤ 二本のギルを結ぶやり方



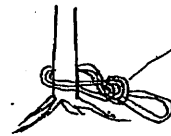
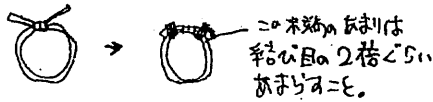
これは本端を結ぶだけ。これはけんこい時に、ダブルアックスマンが「けんこ」と固くなってしまった場合、このように時間がかかるが、このようにくぐりこむと時間短縮になる。

⑥ 腰を脱ぐ法



⑦ シュリングは本端をフックで固定する

ナットとフックのフックで固定するやり方



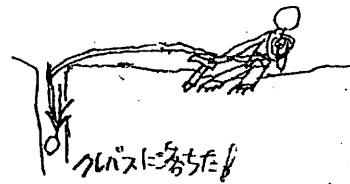
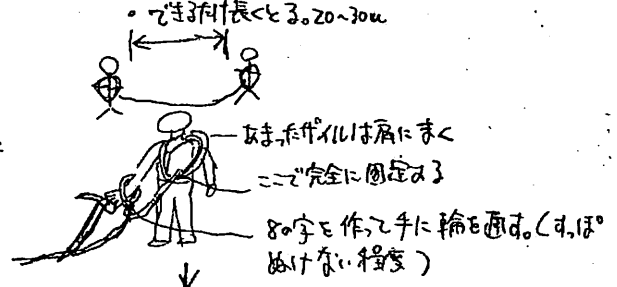
<実技>

① スタンプインゲアックスビレイ



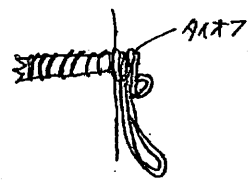
- ・支柱で支えただけの上の方に。
- ・斜面に横むきで立つ。
- ・ピッケルを両手につかむのは谷側になるようにする。(中央にピッケルがあったら下にはつかない時に足がつかない、谷側の足がとばさずする。)
- ・すぐ下にスロープを横にうねみランナーを一つとっておく。(これは上からランナーをこけた場合に上に引かせるのを防ぐため。スタンプインゲアックスビレイは下へつかれるようにできているので上へつかれると弱いため、すぐ下にはランナーをとっておけばそのランナーが上につかれ、足のほうは下につかれることになる。)

② タイロフベレイ (水平な所と氷河などでも移動する時に使用するコナテ)



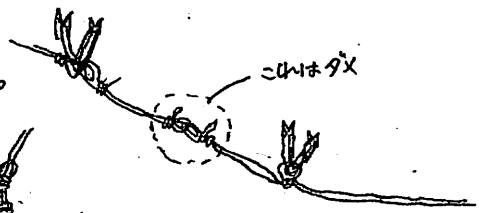
落ちたピッケルに輪を通した手をつかむ。その手は、ピッケルを前につまみ、体を横にして止める。ピッケルは必ず上からつかない要領につまむ。

・アイスクリューも同様だが、支点にあるラングは
タイオフにするとねじれない。



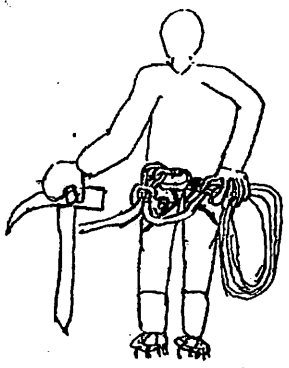
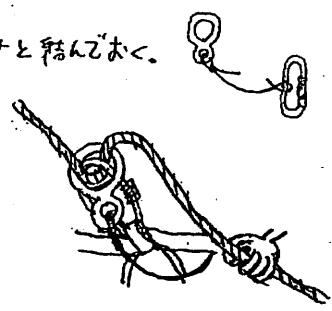
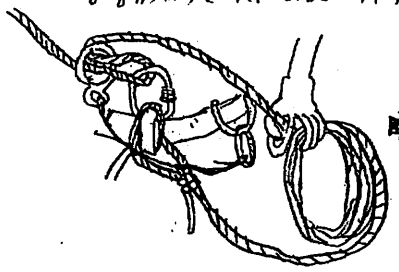
注意点

- ① 両方の末端は支点の間でつぎ足さない。
- ② ランク(中間支点)は
 - 1. Fxも2重でぶーリン結び
 - 2. ランクを2重でプルラング結び
- ③ アイスハーケンには氷がとけておど
ゆるむので通過するハローが毎回
チェックし、しめ直すこと。

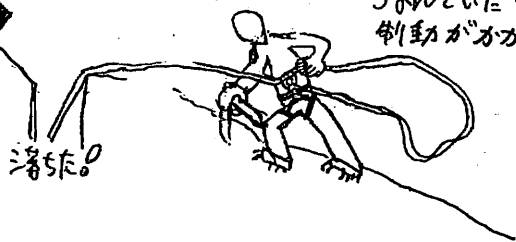


<ヒマラヤコンテ>(通称ヒマコン)

・8かんのクセの穴にひもを付け、カラビナと結んでおく。



一番8かんの寄りのザイルを
親指と人差し指でつまみ、おし
は3本の指でループを挟んで
おく。



おぼやくピッケルをさしてふんばる。(ピッケル
ストッパー形になってしまえばいい)
ループを(おぼりなげで親指と人差し指で
つまんでいたザイルをにぎりしめて、少しづつ
制動がわかるようにザイルをはみに出して
ゆく。

<その他参考になったこと>

- ビバークについて。ビバーク訓練は合宿で四季を通してずいぶん「また」と言っていた。雨の中で、雪の中でetc とにかく前もって経験しとくといいないので全然やめよう。雪浪をほった。岩がけ、氷、ハイマツの中、ツェルトをかぶったり、ツェルトもなくてカマドで煮ておいたりする。昨年の早稲田の遭難はビバークがほとんどで「また」のせいだと思ふ。それがヒコとこには常にシュツカバをもっている「また」と言っていた。このシュツカバの取りなして、生死が別かゆることもあると言っていた。朝起きて2〜3分でシュツカバを脱ぎだす1時間のつもりでいたことなので、今後山岳会の方針としてとり入れようと思ふ。ビバーク訓練はやらずに「また」で思ふ。
- 体力について。体力の衰えが怖い技術は無い。体力がなければビバークしても耐えられなくて死んでしまう。つかれていけば「また」集中力が散漫になってミスをしやすくなる。山のミスは直接生死にかかわってくることが多い。
単に体力がないというだけではなく体力測定(高木の入りか所参照)をしてどこが弱っているかきちんと測定すると、欠点・問題がわかればその人間の特性がわかりトレーニングもまよまよできる。
トレーニングも何か目標(End.1. 山. 海外 etc)をきかけて行うといい。

<感想>

参加して下さるおどろきは、参加者のレベルが低かった。11〜20歳ばかりの人、ギールをほとんど使っていない人、夏しか行ったことのない人、etc. 参加したのが2年生が多く、また山を1年しかやってないからこんなものなのだらうか。先輩がいない(少ない)技術が伝わっていない所も多かったし、またはじめから実力の差がこんな所にはないかもしれない。しかし、基本的なこともわかっていない。岩や冬山に(夏山、冬山、冬山)行ったら死んでしまうと思ふ。女子講師が「では室のまともな人も、年齢も性別にも関係なく雨も降れば雪も降る。自然の中ではおどろく人が同じ条件の中にいる」というようなことを言っていた。自分もまだ2年生で経験は全然ないが登山には必要最低限の知識は山岳会で学んだ。しかし、その最低限の知識さえもない人が3年、4年となりリーダになっていく。また女子程度、カリシ伝説の女子山岳部でも、部員が上級生が1人中2人ではちゃんと部がわけていけるわけがない。そこでOBが「か」が入って「昔はな〜」「今は若いもんは軟弱になった」と言う。そこで現役は無理をして「か」をやる。言うことと「か」はOBが「か」はな〜 確率や新聞、大学 etc からたまたまわかる。

時代がかわり、登山もかわった。装備も変われば技術も変わる。技術も変われば登山スタイルも変わってゆく。登山以外のこともたくさんあるから部員だとして減る。部員がいなければ部としては衰えてゆく。そうなれば部の運営方法も変わらざるを得なくなる。そのためにOBが昔と同じものを要求する。

「OBが昔の活動力にOBを出して大学、大学上げておくと女子講師が言うし、1/4の11の年が上だった。口は出さないがOBがして、何らかの接触が大学は1/3だ。OB組織もなく自分たちだけで活動しているのが衰えた1/3だ」と言っていた。

また他大学の友達もどきたし、講師も1人なの(2人がいたが、感情的にやめてくれた)たり、たまたま講師ではなかったのもどきどきに楽しかった。勉強(勉強)もした。ハードな日程だった。

信州大学山岳会

積雪期山行報告書

1994.11 ~ 1995.5

S · A · C

編集・印刷 / 伊那